

この度は、私学助成の大幅な削減に関して、ご要望を頂戴致しまして誠にありがとうございました。本来であれば、肉筆で返信をさせて頂くべきところ、同趣旨のお葉書を大量に頂戴し、また中には、本当に残念ですが、誹謗中傷や、推測に基づく極めて一方的な記述を【私のひと言】欄に記入された方もおられたため、誠に恐縮ですが、ご丁寧に御記述頂いた方に対しても、コピーになっておりますことをどうかお許し下さい。

特に、「あなたは私学に通っている生徒を苦しめるために県議会議員になったのですか」という【私のひと言】への記述は、私自身の議員活動のみならず、私の生き方に対する冒涇であると思います。組織的な運動として、ご要望を頂戴することは十分理解しますし、敬意も表しますが、一部こういう記述をされる方もおられることは、議員として人間ですから、気持ちが削がれるようで、非常に残念でした。

また、私の宛名が全て印刷で、おそらく私自身のことについて、県議会議員ということ以外に、全く御認識を頂いていない方も多くおられるように拝察したため、この夏頃発行の後援会報も同封させて頂きました。せめて、誰宛に、ご要望を書かれたのか、お見知りおき頂ければ幸いです。

なお、蛇足ながら、私の兄弟2人は、関西高校の卒業であること、さらに、私の子どもは小学2年生ですから、これから私学に通う可能性も十分にあること、さらに、保護者はもちろん、私学の経営者、先生方に、多くの知人・友人がいることは、申し添えます。

今回、皆様から頂戴しましたご要望は、やや抽象的な内容でありましたが、おそらく、その趣旨において一致すると思われる私学協会より頂戴した別紙陳情につきましては、様々な議論がありましたものの、自民党の総務部会、政務調査会、議員総会を経て、総務委員会および今9月定例会本会議で採択させて頂いたことをお知らせ致します。議会として、財政構造改革プラン素案に対して、ひとつの意思表示をさせて頂きました。

また、9月10日、岡山県私学助成を進める会ならびに私学教諭代表の方々と議長代理の総務委員長としてお会いし、今回採択させて頂いた陳情とほぼ同じ内容のご要望を賜り、意見交換させて頂いたことも、お伝え致します。

私は、総務部会長、総務委員長、政務調査会副会長として、いずれについても、私の中では、最大限動かさせて頂いたつもりです。また、自民党としても、皆様の思いを受け止めさせて頂いていることは、御認識頂ければ幸いです。

ともあれ、11月に固まる素案から、私学助成の削減案を除外するというご要望に対しては、いかなる形になるかは分かりませんが、全力を尽くして対応させて頂くことは、お約束致します。まずは、9月定例会の関係の御報告まで。

2008年9月
岡山県議会議員 佐藤真治